

5. 学会動向

フォーラム・研修会等参加報告

フォーラム・研修会名 私立大学情報教育協会 教育改革 IT フォーラム 報告者名：龍 昌治
<開催概要> 開催日：2007年6月16日（土） 場所：明治大学リバティータワー 開催趣旨： 教育改革の課題を解決するための方策を模索するため、ファカルティ・ディベロップメント、スタッフ・ディベロップメントへの取り組み、教育支援・学習支援、学習意欲の向上を促進するIT活用の工夫など問題提起を踏まえ、研究討議する他、教育活動に役立つ事例紹介を実施する。 <報告内容> 分科会形式で行われた事例紹介と討議では、「学習意欲や参加意識を高めるための取り組み」として、大人数講義における携帯電話を利用した出席管理や小テスト機能を活用した事例などが紹介された。 大手前短期大学では、携帯電話を活用した簡易な授業評価アンケートシステムを構築している。4択4問と自由記述2問（100字）のみの固定的なシステムで、教員は授業時に学生に回答を求め、直後にWebで集計結果を知ることができる。記名式ではないため、率直な意見が聞け、翌週には結果をフィードバックできる手軽さと即応性が特徴となっている。また管理者モードでは、テキストマイニングツールによる詳細な分析を行うこともできる。 明治大学でも、Webベースの全学システムを補完するシステムとして、携帯電話を利用したリアルタイムのシステムを構築しており、対面授業への活用方法やその理念が詳細に説明された。狭義のE-learningシステムという教材配布やテスト機能としてではなく、教育のユビキタス、モバイル化をめざして、大規模クラスで携帯電話を教育学習活動に積極的に利用している。学生たちによる膨大な講義ノートテキストを、翌週の講義には印刷配布して授業利用するなど、重要なのはシステムではなく、その教育哲学であるといえよう。 いずれも対面授業を基本に、その効果を確実なものにするために、情報技術を利用している。取り組み当初は、単独の教員のみであったり、押し付け

のシステムであったりしたものが、効率的な教育手法として多くの教員や授業に定着してきている点が注目される。そのための支援体制が構築されている点に注目したい。

会場校の明治大学からは、教育の情報化推進本部と知財化推進本部の取り組みが紹介された。毎年各部署から、教育の情報化にかかわる中長期計画書の提出をうけ、審議検討のうえで予算化をはかり、システムの構築と運用をサポートする。推進本部では、大学院修了者を 20 名ほど技術スタッフとして雇用し、これらの計画を全面的にサポートする体制を整えており、若手理工系研究者の養成コースとしても、大きな成果を上げている。

紹介された事例では、個々の教員や教学組織単位の取り組みを、全学的に取り上げ、システム化する仕組みが有効に機能しており、結果的に **Oh!Meiji** などの全学システムの補完と補強が計画的に行われている。キャンパス内各所に設置された **Oh!Meiji** 端末や、各教室に設置されている情報コンセント（全席）の利用度も高く、学生ポータルシステムとして有効に機能している。

これらの点は、本学においても、大いに参考になる。教学委員会や **FD** 委員会など関連委員会とも連携をはかり、情報化推進委員会の機能強化とともに、教育の情報化を全学的に進めていきたい。